

## 中学校社会科における論述する力を伸ばす 教材の開発と指導の工夫

### はじめに

国立教育政策研究所が実施した教育課程実施状況調査やOECDが実施した「生徒の学習到達度調査」(PIISA)などから、日本の子どもたちには基礎的、基本的な知識・技能の習得については一定の成果が見られたものの、思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式の問題に課題があることが指摘されている。また、平成19年度に国立教育政策研究所が実施した「特定の課題に関する調査」でも、資料から分かったことをまとめたり自分の考えを根拠をあげて説明したりする力が不十分であるとの指摘がなされている。

社会科の学習では、各種の資料から必要な情報を集めて読み取る技能は教科の目標を達成する上で重要な要素であり、読み取った情報から社会的事象の意味などを筋道立てて考えたり、それを根拠として自分の考えを文章で表現したりする力のさらなる育成が求められている。将来の社会を生きる今の子どもたちに、社会的な見方や考え方を身に付けさせるためには、思考力、判断力、表現力を育成することが必要であり、授業の中で資料を読み取り、解釈したり、説明したり、論述したりするような学習活動を仕組むことが大切である。

そこで、本研究では、このような学習活動を行う一つの方法として、資料を効果的に活用して生徒の論述する力を伸ばす教材を開発し、その具体的な指導事例を提案しようと考えた。

### 研究の目的

資料を効果的に活用して生徒の論述する力を伸ばす教材を開発し、その具体的な指導事例を提案する。

### 研究の方法

- 1 教師及び生徒へ論述式問題に関するアンケート調査を実施し、課題を具体化する。
- 2 論述式問題を作成し、その指導方法を開発する。
- 3 具体化した課題や指導方法について、研究協力校で検証を行う。

### 研究の内容

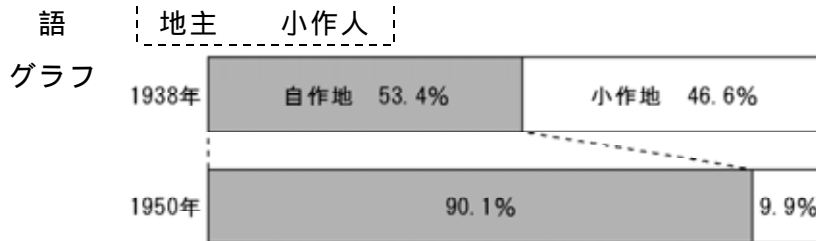
- 1 論述式問題に関するアンケート調査の実施  
資料を活用した論述式問題について、教師と生徒の意識及びその違いを明らかにし、論述式問題の作成及びその指導方法の工夫・改善に資することを目的とした。  
実施時期：平成22年10月1日～平成22年10月31日  
対象：中学校社会科教員、中学校第3学年生徒  
人数：教員21人、生徒929人

#### (1)教師用アンケート調査の結果

- |   |   |       |
|---|---|-------|
| 1 | 生徒は、資料(グラフ・表・図・絵・地図など)を読み取って、20字以上の文章で答えるような問題を得意だと思いますか、それとも苦手だと思いますか。 |       |
|   | (1) 得意であると思う。   | 0%    |
|   | (2) どちらかという得意であると思う。  | 0%    |
|   | (3) どちらかという苦手であると思う。  | 61.9% |
|   | (4) 苦手であると思う。   | 38.1% |
| 2 | 1で「(1)や(2)」と答えた方は、その理由を書いてください。   |       |
| 3 | 1で「(3)や(4)」と答えた方は、その理由を下の～から選んでください。(複数回答可)また、「その他」を選んだ方は、その理由を書いてください。 |       |
|   | 問題文を読むことがめんどろだと感じている生徒が多い。  | 28.6% |
|   | 問題文の意味を理解するのが難しいと感じている生徒が多い。<br>(何を問われているのが分からない、分かりにくい)                | 85.7% |
|   | 資料を読み取ることが苦手な生徒が多い。<br>(表、図、グラフ等の見方、変化や違いなど)                            | 52.4% |
|   | 割合(%)が出てくると分からなくなる生徒が多い。  | 47.6% |
|   | 今まで見たことがない資料が出てくると分からなくなる生徒が多い。   | 47.6% |
|   | 文章にまとめるのが苦手な生徒が多い。  | 90.5% |
|   | その他   |       |
| 4 | 次の例題について、生徒は難しいと感じると思いますか。下の～から選んでください。(複数回答可)                          |       |

【例題】

グラフは、1938年と1950年の自作地と小作地の割合をそれぞれ示している。  
Aこのグラフから読みとれる変化について書き、さらにBその変化が生じた理由をC原因となった政策の名称と内容にふれながら書け。その際、次の語をすべて用いること。



(『農林省統計表』から作成)

【解答例】

自作地の割合が大幅に増えている。これは農地改革によって、政府が地主の土地を買い上げ、小作人に安く売り渡したためである。

(『平成22年度長崎県公立高等学校入学者選抜学力検査』より)

難しいとは思わないと思う。	9.5%
問題文の下線部Aが難しいと思う。	9.5%
問題文の下線部Bが難しいと思う。	66.7%
問題文の下線部Cが難しいと思う。	28.2%
「地主」「小作人」「自作地」「小作地」の語句の意味が分からないと思う。	38.1%
答えを文章で書くことが難しいと思う。	71.4%
問題文を理解することが難しいと思う。	38.1%

(2)生徒用アンケート結果

- 社会科の学習は好きですか。また、そのように答えた理由を書いてください。
  - 好きである。 18.4%
  - どちらかというところ好きである。 39.8%
  - どちらかというところ嫌いである。 31.5%
  - 嫌いである。 10.3%
- 社会科の問題で、資料(グラフ・表・図・絵・地図など)を読み取って、20字以上の文章で答えるような問題は得意ですか、苦手ですか。
  - 得意であると思う。 3.8%
  - どちらかというところ得意であると思う。 12.2%
  - どちらかというところ苦手であると思う。 50.9%
  - 苦手であると思う。 33.1%
- 2で「(1)や(2)」と答えた方は、その理由を書いてください。(単位:人)
  - 資料にヒントや答えが書かれているから。 26
  - 簡単だから(分かるから)。 23
  - グラフを読み取るのが得意だから。 15
  - 文章で答えるのが好きであり、得意だから。 12
  - 見たことをそのまま書くだけだから。 10
  - 特になし。 7
  - 自分で考えて書くことが好きだから。 5
  - 自分の言葉で書けるから。 5
  - 暗記しなくても答えられるから。 5
  - そういう問題が好きであり、おもしろいから。 4
  - 資料を覚えているから。 3
  - グラフなどを見たりかいたりするのが好きだから。 2
  - その問題に関する知識を身に付けていれば分かるから。 2
  - 塾で勉強して覚えているから。 2
  - 時代の流れをすべて覚えているから。 1
  - 教科書に大体答えが書いてあるので覚えておけば解けるから。 1
  - 語句の意味を覚えるのは得意だから。 1
  - どうしてそうなったのかなどは、気になるので覚えられから。 1

・日頃から似たような問題を解いていけばよいから。	1
・読み取れたときはうれしいから。	1
・グラフや表は文章より分かりやすいから。	1
・社会科が好きだから。	1
・広い視野で問題を見るから。	1
4 2で「(3)や(4)」と答えた人は、その理由を下の ~ から選んでください。(複数回答可) また、「その他」を選んだ人は、その理由を書いてください。	
問題文を読むことがめんどろである。	25.7%
問題文の意味を理解することが難しい。 (何を問われているのかが分からない、分かりにくい。)	46.3%
資料を読み取ることが苦手である。 (表、図、グラフ等の見方、変化や違いなど)	48.3%
割合(%)が出てくると分からなくなる。	47.8%
今まで見たことがない資料が出てくると分からなくなる。	40.3%
文章にまとめるのが苦手である。	73.9%
その他	
5 次の例題について、難しいと感じますか。下の ~ から選んでください。(複数回答可)	
(教師用アンケートと同じ例題を使用)	
難しいとは感じない。	17.9%
問題文の下線部Aが難しい。	13.2%
問題文の下線部Bが難しい。	50.1%
問題文の下線部Cが難しい。	42.0%
「地主」「小作人」「自作地」「小作地」の語句の意味が分からない。	27.2%
答えを文章で書くことが難しい。	47.9%
問題文を理解することが難しい。	18.4%

### (3) アンケート調査結果の考察

#### ア 教師用「質問1」と生徒用「質問2」について

教師・生徒ともに「どちらかという苦手」「苦手」を合わせた割合が教師は100%、生徒は84%で非常に高い。これは予想されたとおりの結果である。

#### イ 教師用「質問3」と生徒用「質問4」について

教師	28.6%	85.7%	52.4%	47.6%	47.6%	90.5%
生徒	25.7%	46.3%	48.3%	47.8%	40.3%	73.9%
教師 - 生徒	2.9%	39.4%	4.0%	-0.2%	7.3%	16.6%

- ・ について(問題文を読むことがめんどろである。)
 

文章を読むことに苦手意識を持っている生徒が約4分の1いる。問題文に出てくる社会的事象の意味を理解しているかどうかとも関わりがある。
- ・ について(問題文の意味を理解するのが難しい。)
 

この項目は、教師と生徒の意識の差がもっとも大きかったものである。教師は90%近くが問題文の理解に問題があると考えているのに対して、生徒は50%程度しか問題文の理解が難しいとは考えていない。原因として、教師は採点等によって生徒が問題文の読み取りができていない状況があることをつかんでいるが、生徒は自分が間違えた原因の一つとして、自分が問題文の意味を読み取れていないことに気付いていないという状況があると考えられる。教師が生徒に問題文の読み取りの大切さを意識させるとともに、問題文の読解力を向上させるための手立てが必要である。
- ・ 、 について(資料を読み取ることが苦手である。割合(%)が出てくると分からなくなる。)
 

教師、生徒ともに約50%が資料の読み取りと割合に苦手意識を持っているという認識がある。 の問題文の読み取りともかわりがあり、指導の強化が必要である。
- ・ について(今まで見たことがない資料が出てくると分からなくなる。)
 

教師の約50%、生徒の約40%が新しい資料に対して不安であるという認識を持っている。これは資料を活用した論述式の問題そのものに対する苦手意識と関係していると考えられる。様々な資料を活用する問題に触れさせることが必要であり、そのためにも論述式の問題の分類が必要である。

- ・ について（文章にまとめるのが苦手である。）  
教師、生徒ともに、論述式の問題が苦手な原因として最も多く挙げられた項目である。教師、生徒ともに文章にまとめることが苦手であるという認識があり、日常の授業の中で文章にまとめるトレーニングを行うことが必要である。特に、理由を答えるのか、結果を答えるのか、影響を答えるのか、単純な資料の読み取りなのかによって解答の書き方が変わってくることを生徒に理解させる必要がある。

ウ 教師用「質問4」と生徒用「質問5」について

教師	9.5%	9.5%	66.7%	28.6%	38.1%	71.4%	38.1%
生徒	17.9%	13.2%	50.1%	42.0%	27.2%	47.9%	18.4%
教師 - 生徒	-8.3%	-3.7%	16.6%	-13.4%	10.9%	23.5%	19.7%

- ・ について（難しいとは感じない。）  
この例題は『平成22年度長崎県公立高等学校入学選抜学力検査』で出題され、正答率が9.3%（不完全51.4%）の問題である。難しいとは感じないと答えた生徒（17.9%）の中には文章で答えるのが苦手な生徒が存在するため、正答率はこれよりも下がると考えられる。
- ・ について（問題文の下線部A『このグラフから読みとれる変化について書き』が難しい。）  
この問題のグラフの読み取りはかなり簡単なものである。ここで注目すべきことは、教師が考えるよりも多くの生徒がグラフの読み取り方に不安を持っていることである。その差は小さいが、教師は簡単なグラフの読み取りに対しても、このくらいはできるだろうと考えずに丁寧な指導を心がけることが必要である。
- ・ について（問題文の下線部B『その変化が生じた理由』が難しい。）  
生徒にとって最も難しいと感じている項目である。グラフの読み取りが難しいと感じる生徒が多い（4 - が48.3%）中で、さらにその変化の理由を問う問題となっている。この問題は農地改革について、グラフの変化の理由と結びつけながら説明するというものである。農地改革の語句の意味を説明できる生徒は、ほぼ答えることができる問題である。この項目に対して難しいと回答した生徒が50%以上である原因としては、資料から読み取った内容と社会的事象を結びつけて考えることの難しさと、基礎的な歴史語句の定着が不十分であることが考えられる。社会的事象の意味や意義を理解させるとともに、それを説明できる力を身に付けさせることが必要である。
- ・ について（問題文の下線部C『原因となった政策の名称』が難しい。）  
教師が考えている以上に「農地改革」という基本的な語句が生徒に定着しておらず、教師と生徒の意識に大きな開きがある。ここは 以上に教師は認識を改め、基本的な語句の定着に向けて、授業の改善を行う必要があると考えられる。その上で、文章で答えさせるためには、基本的な語句を使った文章を書くトレーニングなどが必要であろう。また、「農地改革」と「地租改正」、「御成敗式目」と「武家諸法度」など語句の意味を混同しやすいものについては、より丁寧な指導が必要である。
- ・ について（「地主」「小作人」「自作地」「小作地」の語句の意味が分からない。）  
と同じ基本的な語句に関する質問であるが、教師と生徒の回答が とは逆になっている。漢字から意味が推測できる語句については、比較的定着しやすいのではないかと考えられる。
- ・ について（答えを文章で書くことが難しい。）  
教師と生徒の認識（受けとめ方）に大きな差がある。教師は文章で書くこと自体に大きな課題があると判断しているが、生徒にとっては ~ の項目にかかわる様々な要素が関係しており、その上に文章で書くという難しさが加わっているという見方ができる。文章を書くトレーニングだけでは論述式の問題には対応できないということであり、基本用語の理解や資料の読み取り方という基礎的、基本的な知識・技能の定着が大切であると考えられる。
- ・ について（問題文を理解することが難しい。）  
教師が思っているほど、生徒は問題文の理解が難しいと意識していないこと

が分かる。これは問題文を十分に理解している生徒が多いとも取れるが、生徒用アンケート調査「質問4」の考察でも述べたように、問題文の正確な読み取りに対する生徒の意識が低いこととも関係していると考えられる。

## エ まとめ

今回のアンケート調査から、論述式の問題に対する教師と生徒の苦手意識が明らかになるとともに、教師と生徒の認識に差があることも分かった。また、質問項目の多くにおいて、抵抗感や難しさを感じている割合は生徒よりも教師の方が高い。このことは、論述式の問題に対する指導の重要性を教師が認識していることを表している。しかし、資料の読み取りと基本的な語句の定着については、教師が考えるよりも多くの生徒が不安を抱いている。生徒は文章を書くことに苦手意識を持っているので、ただ単に文章を書かせるトレーニングだけでは論述式問題には対応できない。問題文の読み取り方、基本的な語句の理解、資料の読み取り方などについて、これまで以上に丁寧な指導を行う必要があると考えられる。

以上のことから、生徒の論述する力を伸ばすための一つの方法として、論述式の問題を使って、

何が問われているのか、何が分かれば解けるのか等、問題文を読み取る活動  
問題に関わる部分を資料から読み取り、それを文章で書かせる活動

とをpushした上で、文章で答えを書く活動

というような、段階を踏んだ活動を授業で行うことが考えられる。

## 2 論述式問題の分類と作成

### (1) 論述式問題の分類

2009年の全国高校入試問題から記述式の問題を抜き出し、問題とその解答例を調べた。これをもとに、まず表1のとおり15種類の出題形式に分けた。

表1

	出題形式
1	グラフの中の変化について、原因や影響について説明
2	グラフの中の変化について、原因や影響についてキーワードを使って説明
3	グラフを読み取り、ある変化の特徴や理由等について説明
4	グラフを読み取り、ある社会的事象の特徴や原因、影響等を説明
5	二つのグラフを読み取り、読み取った内容と関連させて、ある社会的事象を説明
6	複数の雨温図からある都市を選ばせ、その理由を説明
7	資料をいろいろな視点から読み取らせて特徴等を説明
8	社会的事象の意味を説明
9	社会的事象について、キーワードを使って説明
10	社会的事象を説明した文章の一部を、キーワードを使って記述
11	社会的事象について、複数のキーワードから必要なものを選ばせて説明
12	社会的事象の原因や影響を説明
13	社会的事象の原因や影響について、キーワードを使って説明
14	社会的事象について、他の事象と比較して、キーワードを使って違いを説明
15	社会的事象について、自分の考えを記述

以上の出題形式から論述式問題の形式を表2のとおり大きく3つに分類した。

表2

問題の形式	解答の形式
資料(グラフ、図、絵など)について、設問の指示に合う部分を読み取り、指示に従って文章表現する。	資料から読み取れる事実を記述する。
資料(グラフ、図、絵など)と社会的事象を関連付け、社会的事象について資料に關係する部分を文章表現する。	社会的事象の持つ様々な面について、資料に關係することを記述する。
社会的事象の特色や原因、影響などを文章表現する。	社会的事象の単純な説明や因果關係、影響などについて記述する。

### 分類 について

この問題では、グラフの変化や図、絵などを読み取り、それを記述することが求められている。単純な読み取りではあるが、資料から設問に合う部分を取り出して文章で表現する必要がある。

### 分類 について

この問題では、資料と既習の知識や社会的な見方・考え方を結びつけて記述す

ることが求められている。資料から読み取った内容を、単純に社会的事象を示す語句と結びつけたり、社会的事象の原因や背景、影響などに関連させたりするなど、結びつける事柄により難易度が変わる。基本的な語句の意味はもちろんのこと、基礎的、基本的な知識の理解が必要である。

#### 分類 について

この問題では、様々な社会的事象について、その特色や原因、影響などについて記述することが求められている。中には二つの事象を比較させたり、個人の考えを書かせたりするような問題もある。難易度についても分類と同様に、社会的事象の単純な説明から因果関係、影響までであるため、様々である。

以上の3つの分類に加え、それぞれの問題でキーワードとなる語句を設定し、それを使って記述することを求める問題もある。キーワードを設定することで、様々な面をもつ社会的事象の見方や考え方を、ある視点からの解釈で記述させる。また、キーワードが複数あったり、必要なキーワードだけを使用させたりすることで難易度を変化させている。社会的事象そのものの理解に加え、キーワードとなる語句の理解も求められる。

#### (2) 論述式問題の作成及びその指導の工夫

アンケート調査結果と論述式の問題の分類をもとに、以下の3つの種類の問題作成を試みた。

資料（グラフ、図、絵など）について、設問の指示に合う部分を読み取り、指示に従って文章で表現する。キーワードを設定する場合もある。

資料（グラフ、図、絵など）の読み取りと社会的事象を示す基本的な語句を結びつけ、文章で表現する。

資料（グラフ、図、絵など）の読み取りと既習の知識を結びつけ、文章で表現する。

アンケート調査の結果から、問題文の把握、教科書に出てくる基本的な用語の定着、資料の読み取りなどが課題として挙げられている。そこで、生徒がどのような段階を踏んで論述式の問題に取り組むことで、苦手意識に対する対策とすることはできないかと考えた。

第1段階... 資料と関係のある社会的事象の名称を問う問題

第2段階... その社会的事象にかかわる部分を資料から読み取る問題

第3段階... 社会的事象について資料から読み取った内容を使って記述する問題

### 3 指導方法と検証授業

#### (1) 効果的な指導法と「教えて考えさせる授業」の関係について

課題の克服と論述力を伸ばすための指導の工夫として、検証授業では「教えて考えさせる授業」を通して検証を行った。

まず、基本用語の定着については、授業前半の「教える」過程で分かりやすく教え、その習得を図ることが重要である。そのことが、授業後半における「理解の深化」過程の充実につながる。つまり、教えられたことを活用する段階で論述式問題に取り組ませることで、生徒の思考力や判断力、表現力が高まると考えた。

#### (2) 協力校における検証授業について

長与町立高田中学校における検証授業は、3年の公民的分野「わたしたちの暮らしと経済」という単元の「市場経済の仕組み」という題材で行った。

本時の目標：市場経済における価格の変化について、需要量と供給量の語句を使って説明することができる。

この授業では、市場経済における価格と需要量・供給量の関係について学習し、これを実際の社会的事象に当てはめることにより、経済にかかわる社会的な見方や考え方を身に付けさせることがねらいである。

授業で使用したワークシートの中に論述式の学習課題を設定し、生徒が読み取った情報から社会的事象の意味などについて筋道を立てて考えたり、さらにそれを根拠として自分の考えを文章で表現したりする力を伸ばそうとした。

指導事例

本時では、まず下に示すワークシート を用いて指導を行った。シートの中段に【問題文】を示しているが、「キャベツがとれすぎると、農家の人がそれを廃棄するのはなぜか。」という問いに対して、「需要量」「供給量」という指定語句を使って説明させるものである。その際、結論に至るまでの手順を示している点がポイントであり、生徒にとっては、思考の道しるべを示したものと見える。

手順1では、問題文の中で「どれが需要量で、どれが供給量か」を文章から読み取らせ、次にどちらが多いかを判断させる。

ここまでくれば、一般的な概念に当てはめて価格はどうなるかを判断し、農家の人がキャベツを廃棄する根拠を説明するということになる。

さらに、このワークシートでは、予め模範解答となる文章(全文)を教師が示し、その中に選択形式で選ばせていく方法をとっている。手順に従って読み取り、判断したものを確認しやすくするためである。また、文章でまとめることに対する苦手意識や抵抗感を少しでもなくすためである。

学習5. 次の①・②の価格の変化について、手順1～3にしたがい、「需要量」「供給量」の語句を使って説明しよう。

(手順1) 問題文から「需要量」と「供給量」にあたるものを考える。

(手順2) 「需要量」と「供給量」のどちらが多いかを判断する。  
( > ・ < のどちらかに○をつける。 )

(手順3) 手順2の判断をもとにして、価格の変化について説明する

読み取り

判断

説明、論述

①	【問題文】キャベツがとれすぎると、農家の人がそれを廃棄する(捨てる)のはなぜか。	
【需要量】消費者がキャベツを買おうとする量	> ・ <	【供給量】市場に入荷されるキャベツの量
(説明) キャベツがとれすぎるとは、( 需要 ・ 供給 )量が増えるということである。( 需要 ・ 供給 )量はあまり変化しないと考えられるので、( 需要 ・ 供給 )量に対して( 需要 ・ 供給 )量が多くなり、キャベツの価格は( 高くなる ・ 安くなる )。価格が( 高くなる ・ 安くなる )と農家の利益は( 上がる ・ 下がる )ため、キャベツを廃棄すると考えられる。		
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; border-radius: 10px;">A 需要量</div> <div style="font-size: 24px;">&gt;</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; border-radius: 10px;">B 供給量</div> <div style="margin: 0 10px;">→価格は</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; border-radius: 10px; color: red;">上がる</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; border-radius: 10px;">A 需要量</div> <div style="font-size: 24px;">&lt;</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; border-radius: 10px;">B 供給量</div> <div style="margin: 0 10px;">→価格は</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; border-radius: 10px; color: red;">下がる</div> </div>		

ワークシート

次に、ワークシート を用いて「正月やGWに、観光地のホテル・旅館の宿泊代が高くなるのはなぜか。」という問題を提示した。ワークシートと同じように、示された手順に沿って学習を進めさせるが、ワークシート の「説明」と異なるのは、文章を生徒に書かせることである。ワークシート で学習したことを参考にしながら記述させていくことで、論述力を伸ばすことにつながると考えた。

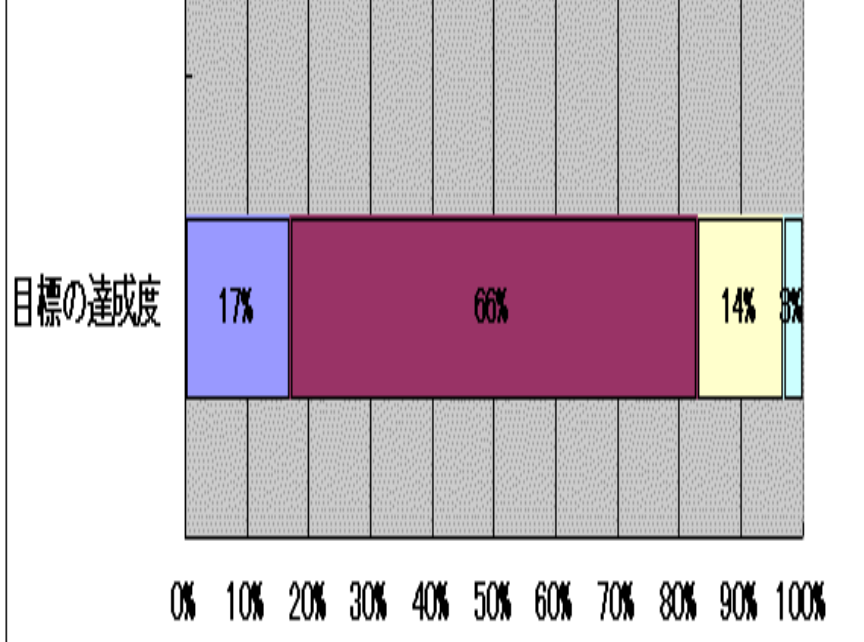
需要量に当たるものは何か。 供給量に当たるものは何か。

正月やGWに着目させ、どちらが多いか

結論に結びつけるための根拠を示し説明する。

②	【問題文】正月やゴールデンウィークに、観光地のホテルや旅館の宿泊代が高くなるのはなぜか。	
【需要量】 宿泊客の人数(利用者の数)	> ・ <	【供給量】 ホテルや旅館の収容数(部屋数)
(説明)  <b>正月やゴールデンウィークの時期は、需要量である宿泊客(利用者)が増える。供給量であるホテルや旅館の部屋数(収容人数)は限られているので、供給量は変わらない。したがって、供給量より需要量が増える正月やゴールデンウィークの時期は、宿泊料が高くなる。</b>		

ワークシート



授業後の生徒の自己評価は左のグラフの通りである。「よくできた」「できた」と回答した割合を合わせると、授業の理解度は90%、目標の達成度は80%を超えた。

この数値から、論述式問題に対し、手順をしっかりと押さえた上で記述させることは、一定の効果があるといえる。厳密に言えば、双方ともほぼ同じ数値を示すのが理想・当然であることを考えれば、

目標の達成度が低い。つまり、「価格の変化について、需要量と供給量の語句を使って説明すること」がまだ十分ではないということになる。これからも、文章で表現することを数多く取り入れていくことが必要である。

対策としては、スモールステップの手法を用いて文章に書かせる活動やグループ学習による教え合い、説明活動などが有効であると考えられる。

### (3) その他、論述力を高めることを目途としたワークシート例

ア 地理分野 題材名 「大陸と海洋の分布」

指導のねらいと育成する能力

「地球儀や地図を活用して、六大陸と三大洋の位置関係を説明させることで、地球規模での位置関係を捉えるための知識と技能を身に付けさせる。」

目標

「世界の地域構成について、六大陸と三大洋のおおまかな形状と位置関係について理解する。」

考えさせる過程における学習活動

「自分がスケッチした範囲を大陸と海洋の名称を使って、相手に分かりやすく説明するための文章を書かせる。」

**【地理分野】 大陸と海洋の分布**

学習3. 地球儀を好きな角度からスケッチし、その範囲を右の世界地図に着色しよう。

例

【世界地図】

学習4. 自分がスケッチした地域を、大陸名や海洋名を使って説明してみよう。

例) 南北アメリカ大陸を中心に、東に大西洋、西に太平洋が位置する地域を描きました。

イ 歴史分野 題材名 「イギリスの革命」

指導のねらいと育成する能力

「世界最初の議会政治は、イギリスで完成したことを理解する。また、資料から社会の変化を読み取る力を育成する。」

目標

「イギリスの議会政治がどのように成立したかを理解する。」

「資料の内容を読み取り、イギリスの革命による政治的変化の意味を考える。」

考えさせる過程における学習活動

「資料から国王と議会の関係を読み取らせ、キーワードとなる言葉を抜き出し、教師が準備した文章に当てはめていく作業を通して革命後の関係を説明させる。」



**【歴史分野】 イギリスの革命**

問3 下の資料を読んで、答えなさい。

第1条 議会の同意なくして国王の権限によって法律の効力を停止したり、その執行を停止したりできるという主張は違法である。

第4条 議会の同意によらない国王大権による資金集めは違法である。

第6条 議会の同意なくして王国内に平時に常備軍を置り、維持することは違法である。

第9条 議会における言論・討論は自由であり、いかなる裁判所でも議会の外においても強制されたり問題とされたりするべきではない。

(部分要約)

①左の資料は、何ですか。 **権利の章典**

②第4条の「資金集め」とは何を意味していますか。 **税金を課すこと**

③次の文の( )に適する語句を入れましょう。

( **権利の章典** )によって、  
 国王は( **議会の同意** )なしに、( **法律** )  
 を停止したり、( **税金** )を課したり、  
 ( **軍隊** )をつくることはできなくなった。  
 また、議会での( **言論** や **討論** )の自由が  
 保障された。

④2つの市民革命によって、イギリスでは国王と議会との関係はどうなりましたか。

(例)・議会の力が国王の権力を上回った。  
 ・国王の権力が議会(憲法)により制限された。

\* 指導展開例とワークシートの詳細については、長崎県教育センターWebページ上に掲載している「活用教材事例」参照  
 ( <http://www.edu-c.pref.nagasaki.jp/kyouzai/kyouzaitop.html> )

4 社会科における「言語活動の充実」について

社会科における言語活動については、学習指導要領解説の「2 社会科改訂の趣旨」( )改善の基本方針」に、次のように示されている。(下線は筆者が付した。以下同じ)

社会的事象に関する基礎的・基本的な知識、概念や技能を確実に習得させ、それらを活用する力や課題を探究する力を育成する観点から、各学校段階の特質に応じて、習得すべき知識、概念の明確化を図るとともに、コンピュータなども活用しながら、地図や統計など各種の資料から必要な情報を集めて読み取ること、社会的事象の意味、意義を解釈すること、事象の特色や事象間の関連を説明すること、自分の考えを論述することを一層重視する方向で改善を図る。

また、「3 社会科改訂の要点(1)教科の改訂の要点」には、各分野における言語活動の要点として以下のようにまとめられている。

- 地理的分野**
- ・地図の読図や作図などの学習
  - ・地図を有効に活用して事象を説明する学習
  - ・自分の解釈を加えて論述する学習
  - ・意見交換したりする学習
- 歴史的分野**
- ・学習した内容を活用してその時代を大観し、表現する学習
  - ・各時代における変革の特色を考えて時代の転換の様子をとらえる学習
  - ・歴史的事象について考察・判断しその成果を自分の言葉で表現する学習
- 公民的分野**
- ・習得した知識、概念や技能を活用して、社会的事象について考えたことを説明する学習
  - ・自分の考えをまとめて論述する学習
  - ・議論などを通して考えを深めたりする学習

学習指導要領に示された社会科におけるこれらの言語活動を、授業の中でどのように位置づけ、どのような学習活動を展開していけばよいのかについて整理してみた。(表1)検証授業だけでは不十分だった点も含めて、その視点を具体例と教師の指示や発問を例示することによって、授業改善の参考にしてほしい。

【学 習 活 動】	【 具 体 例 】	【教師の指示や発問】
<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な資料から必要な情報を適切に読み取らせ整理、分析させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的事象に関する様々な情報や意見などをグラフや図表、文章、写真などから適切に読み取らせる。</li> <li>読み取った情報などを、比較する、分類する、関連付けるなどの技法で整理、分析させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>この地図と表から読み取れることはどんなことだろうか。</li> <li>この歴史的な出来事は、他のどの出来事と関係が深いだろうか。</li> <li>このことを の視点から分類し、その理由を説明してみよう。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な概念などを解釈して説明したり、活用したりさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習した知識や技能、考え方などを活用して、別のことからの意味や意義などを説明させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>なぜ、このような仕組みがあるのか、分かりやすく説明しよう。</li> <li>この考え方を活用すると、この事例はどのように説明できるだろうか。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>課題について、自分が考えたことを、根拠を明確にして文章で記述させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書く時間を確保して、考えた根拠や書く視点を明確にし、自分が考えたことを分かりやすく文章で記述させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考えた根拠を明らかにして、自分の考えを書いてみよう。</li> <li>このことについて、 の立場から自分の考えを書こう。</li> <li>既習事項や自分の経験をもとにして、自分の考えを分かりやすく書いてみよう。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>互いに考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>お互いの考えを根拠をもとに説明させ、グループやクラス全体で話し合わせる。</li> <li> の解決策について、学習したことをもとに討論させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>根拠と考えを順番に説明してグループ内で質問してみよう。</li> <li>それぞれが考えた意見の共通点や相違点を考えて、グループとして意見をまとめよう。</li> <li>この問題の解決策について、様々な立場に分かれて討論しよう。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉や図などを活用して分かりやすく表現させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習したことや自分の意見などを分かりやすく簡潔な文章でまとめたり、図式化したりして表現させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習して分かったことを簡潔な文章でまとめ、説明しよう。</li> <li>それぞれの出来事の関係について、図に表わしてみよう。</li> </ul>

表1に示したように、言語活動を意識した学習活動を「教えて考えさせる授業」の中に意図的・計画的に位置付けることによって、確かな学力の定着を目指した授業実践につながっていくものと考えられる。

特に、「考えさせる」過程における学習活動で、教師がどのような資料を提示できるか、その資料を活用してどのような学習展開を仕組んでいくかは、まさしく教師の教材分析力と授業構築力に大きな関係がある。もちろん、一過性のものや単発的なものでなく、単元全体を見通して身に付けさせるべき能力を明確にしておく必要がある。

## 成果と課題

### 1 成果

本研究は、中学校社会科において論述式問題の作成と活用を通して、生徒の思考力・判断力・表現力を養い、社会的な見方や考え方の育成を目指した学習指導の改善に役立てようとするものであった。昨年度実施した論述式問題に関するアンケート調査から、教師と生徒の意識を明らかにするとともに、高校入試の論述式問題を分析及び分類することで、問題の作成と指導方法の改善につなげることができた。

アンケート調査結果から分かったことは、「資料を読み取る」「グラフの変化の理由を説明する」「文章でまとめる」ことに対して、生徒が強い苦手意識を持っているということである。これらはいずれも思考力・判断力・表現力の育成に関係しており、論述式の問題に対する指導を工夫することでこれらの力を育成することができる。

そこで、本年度は、資料を使って段階的に必要な情報を獲得し、それをもとにして文章表現を可能にするような指導が有効ではないかと考え、協力校において検証授業を実施した。

成果としては、各分野ごとに活用教材として、指導展開例とそれに対応したワークシートを計8題作成することができた。また、それらを用いた授業を実際に行い、問題の解き方について手順を示した指導は、文章で表現（解答）する一助となり苦手意識を軽減する可能性を実感できた。

さらに、今回の検証授業は「教えて考えさせる」授業で実施したものであるが、「理解の確認」でペアでの対話活動を重視することにより、自分の考えを整理したり再構築することにも有効であることを実感できた。

今後は、作成した活用教材の一つ一つにおいて検証授業を重ね、その有用性を数的データを用いて確認し、論述力を伸ばすための指導の工夫と改善を継続していきたい。

### 2 今後の課題

この調査研究を通して、具体的な課題として明らかになったこととしては、以下の4つである。

長期的・継続的な指導の必要性

「論述する力」は、短期間に身に付くものではなく、様々な場面で長期的かつ、継続的に指導していく必要がある。

単元を見通した指導計画の作成

思考力・表現力の高まりは、一単位時間の取組によって得られるのではなく、少なくとも単元を見通して計画的に行われる実践の積み重ねが必要である。

自力解決や文章記述の時間の確保

「教えて考えさせる授業」においては、「教える内容の精選」を「理解深化における学習の充実」につなげる必要がある。

多様な考えの比較・検討や伝え合う力の育成

「考える」過程において、ペア学習やグループ学習を効果的に位置づけるなど、学習形態の工夫・改善が必要である。

社会科の目標は、「広い視野に立って多面的・多角的に考察し、国際社会の中で主体的に生きるために必要な資質や能力を育む」ことにある。

この目標達成のためにも、断片的な知識のみを問うような授業にならないように留意し、写真や地図、資料、年表、統計等さまざまな資料を用いた学習活動を展開し、言語活動の充実を図りながら、生徒の思考力・判断力・表現力を高める学習活動の工夫・改善が必要不可欠である。